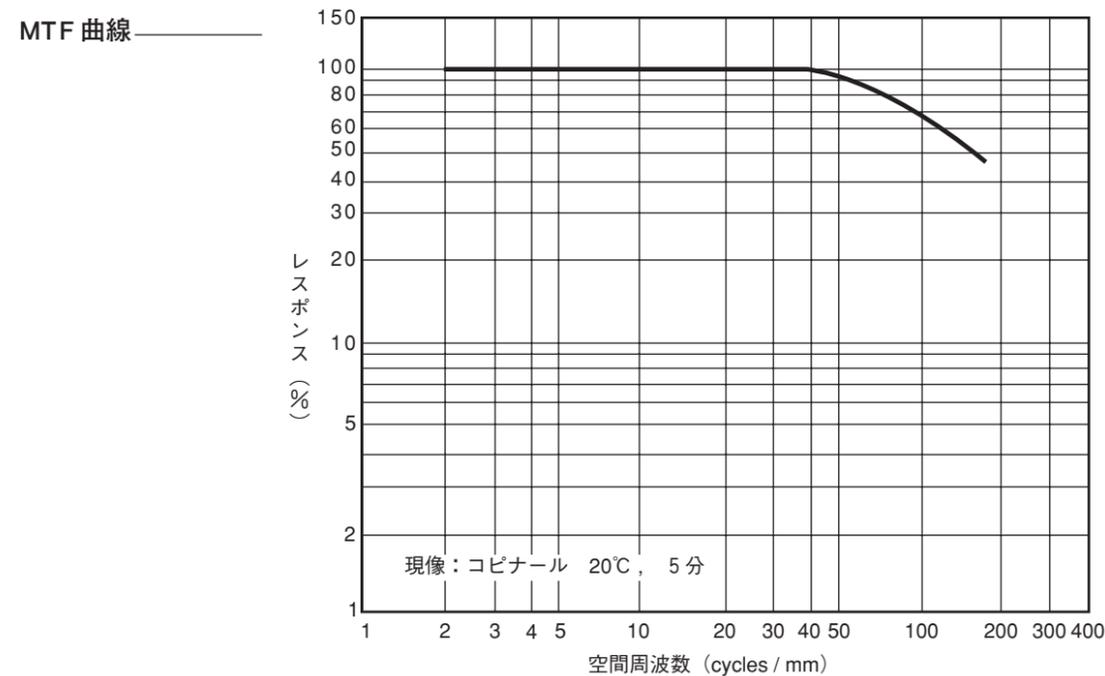
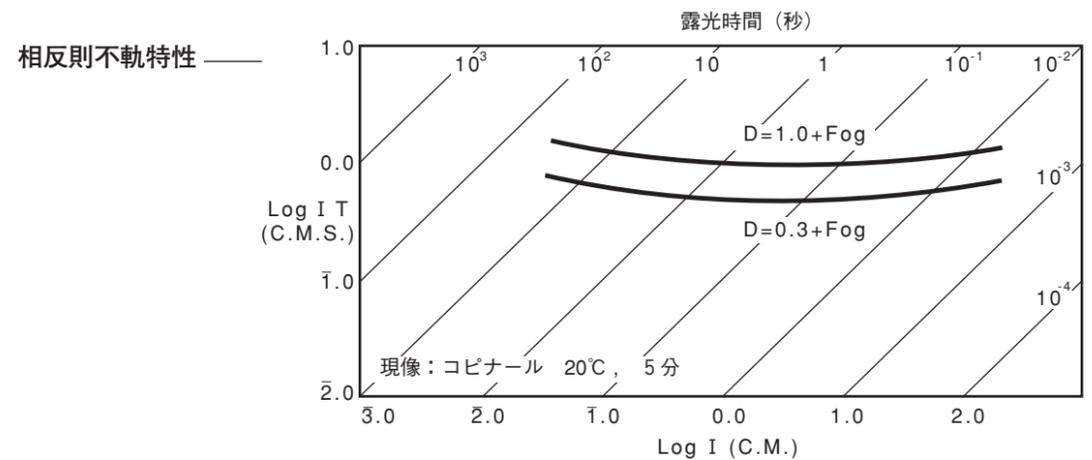


ミニコピーフィルム HR II
MINICOPY FILM HR II



注：このデータシートに記載されているデータ類は、当社で通常実施している試験による結果を表示するものです。これらのデータは、当社の製品規格や個々の製品の性能を保証するものではありません。また、製品の改良によって、これらの特性は予告なく変更されることがあります。



富士写真フィルム株式会社

●本製品についてのお問い合わせは

オフィス&インダストリー機材部 〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30 TEL (03) 3406-2245
〒541-0051 大阪市中央区備後町3-5-11 TEL (06) 6205-6511

●本製品以外の富士フィルム製品のお問い合わせは

お客様コミュニケーションセンター(月曜日～金曜日 午前9:30～午後5:00) TEL (03) 3406-2981
●富士フィルムホームページ <http://www.fujifilm.jp/im/>

053-Ai001A・情-002112-FPT・010-2①

特長・用途 ———— ミニコピーフィルムHR IIはコントラストが高く、解像力と鮮鋭度の非常に優れた超微粒子のマイクロフィルムです。図面、地図、書籍、文献・資料、書類、新聞、文書、帳票の複写用などに適しています。また、学会・研究発表、講演会、会議、教育・研修などのスライド作成に適しています。さらに高温で迅速に処理する自動現像機処理でも高品質の画像が得られます。感光乳剤層とベースの間には特殊な着色を施したハレーション防止層があり、この層がハレーションを防止するので非常に高い解像力を発揮します。このハレーション防止層は現像処理中に脱色されますので、処理後のベースは透明になります。

露光指数 ———— 40 タングステン光 (現像：コピナール 20℃ 5分)
「露光指数」= 45 / H (Hは「最小濃度+ 1.2」の濃度を得る露光量C.M.S)

露光倍数 ———— 原稿の紙質、コントラストおよび色相により多少の露光調節が必要です。次表はケント紙を基準にした複写の場合の各種原稿に対する露光倍数の一例です。

撮影しようとする原稿	倍数
ケント紙	1.0
中質紙	1.1 ~ 1.4
トレーシングペーパー	1.3 ~ 1.5
新聞紙	1.4 ~ 1.6

感色性 ———— パンクロマチック

安全性 ———— 全暗黒下で取扱います。安全光を使用する必要がある場合に限り、富士セーフライトグラス SLG4 (暗緑色) に20W電球を使用し、少なくとも1m以上離れたところで、できる限り短時間使用するようにしてください。

支持体とサイズ ———— セルロースエステル (TAC) クリアーベース 0.127mm
35mm×30.5m (両孔品、暗室装てん用)
135-36 : 35mm 36枚撮り (両孔品、パトローネ入)

解像力

テストチャートのコントラスト	解像力
1 : 1,000	850本/mm

●富士フィルム解像力測定器 FRE-I型で測定

フィルター倍数

富士フィルター	SC-42	SC-50	SC-54	SC-60
色相	淡黄	黄	だいたい	赤
倍数 (タングステン)	1.1	1.4	2.0	5.0

Ⅲ・タンク現像処理 — 現像

ミニコピーフィルムHR IIの現像には微粒子、高解像力の性能を十分に発揮する指定調合現像剤コピナールをおすすめします。

均一な仕上がりを得るために最初30秒間は連続かくはん、その後30秒ごとに5秒間かくはんをくり返します。

コピナールの現像時間と温度の関係

現像温度	20℃	25℃	27℃
現像時間	5分	3分	2分

停止

富士標準停止液FS-1 [水1,000mlに対し富士酢酸(50%)を30ml加える]に20~30秒(17~23℃)浸し、かくはんします。

定着

迅速酸性硬膜定着剤スーパーフジフィックスをおすすめします。定着時間は17~23℃で2~3分です。なお定着液中では定着ムラを防ぐため最初の15秒間は連続かくはんをしてください。

水洗

17~23℃の流水(2~5l/分)で15~20分(水洗タンクが大きい場合20~30分)水洗します。水洗時間の短縮には富士QW(水洗促進剤)をおすすめします。このときの水洗時間は予備水洗(30秒)、富士QW浴(1分)、水洗(5分)です。

乾燥

水洗後ドライウエル(水切り剤)に約30秒間浸し、ぬぐわずに風通しの良いところで乾燥してください。ムラのないきれいなフィルムに仕上がります。ドライウエルを使用しない場合は、スポンジなどで水滴を軽くふき取り、ちりやほこりの少ない場所で自然乾燥または熱風乾燥(50℃以下)します。

自動現像機処理 — ミニコピーフィルムHR IIの自動現像機処理にはAP5をおすすめします。

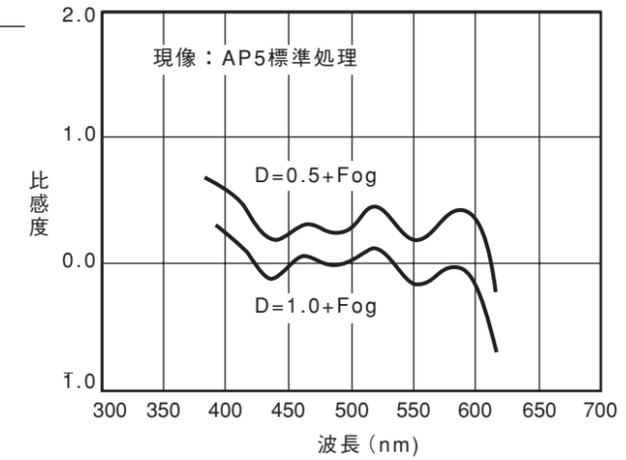
フジマイクロフィルムオートプロセッサ5 (AP5) の標準処理条件

処理工程	使用処理液	タンク数	タンク液量	処理温度	処理時間
現像	MD-305	1	1.5 l	30℃	18秒
リンス	流水	—	—	27℃	9秒
定着	MF-705	2	0.75 l × 2	27℃	18秒
水洗	流水	—	3~5 l/分	27℃	18秒
乾燥	—	—	—	45~50℃	11秒

35mm×30.5m処理ごとに現像液の減量補充(減った量だけ新液を加える—約25ml)を行い35mm×366m(35mm×30.5m 12本)処理後、現像・定着とも新液と交換します。

ただし、規定量を処理していなくても2週間を経過した液は新液と交換します。

分光感度曲線



特性曲線

